

各位

遠鉄グループ 2018 年度中間決算について

当上半期におけるわが国経済は、個人消費や設備投資の持ち直しにより企業収益は堅調に持続し、雇用・所得環境も回復基調で推移しました。

当上半期における当社グループの連結業績につきましては、売上高は9期連続増収・過去最高の963億7千7百万円(前年同期比12.3%増加)、経常利益は26億9千8百万円(前年同期比19.6%増加)、中間純利益は14億1千万円(前年同期比23.2%増加)となりました。

今後の見通しにつきましては、国内需要にけん引される形で引き続き穏やかな景気回復が維持される一方、IoTやAIをはじめとしたICT技術の急速な発展とそれに伴うお客様の価値観の変化により、当社グループを取り巻く経営環境は厳しい状況が続くものと考えられます。

当社グループでは、新3ヵ年中期経営計画で掲げた4つの重点政策である「なくてはならない商品・サービスへの集中」「間接部門の集約による付加価値向上」「強みを独自性に進化させる人材の輩出」「新たなIT技術による仕組みの構築」を推進し、地域社会になくてはならない存在であり続けるとともに、さらなる業績の向上に努めてまいります。

なお、2018年度の年間連結業績につきましては、売上高は2,100億円(前年比17.7%増加)、経常利益は50億円(前年比5.7%増加)、当期純利益は23億円(前年比8.1%増加)を見込んでおります。

(別紙)

- (1) 遠鉄グループセグメント別(事業別)の概況
- (2) 業績推移(連結決算・セグメント別売上高)
- (3) 遠鉄グループ各社の主な事業内容

(1) 遠鉄グループセグメント別(事業別)の概況

① 運輸事業(鉄道事業・バス事業・タクシー事業など)

乗合バス事業におきましては、継続定期券の購入において、予約サービス専用サイトを開設するとともに、クレジットカード決済及びセルフ発行の仕組みを導入し、お客様の利便性向上に努めました。

タクシー事業におきましては、スマートフォンでタクシーを配車できる「全国タクシー」アプリの利用促進や、AI技術で需要予想を行う「AIタクシー」の実証実験を開始し、お客様の利便性向上と従業員の生産性の向上を図りました。

以上の結果、様々な取り組みをしまいいりましたが、運輸事業の営業収益は、74億9千4百万円(前年同期比 2.6%減少)となりました。

② リテールサービス事業(百貨店業、食品スーパー業)

百貨店業におきましては、化粧品の新ブランドを導入、地下の生鮮食品売り場をリニューアルし、売り場の魅力向上を図りました。また、えんてつポイントと各種商品を交換できるWEBサイト「えんてつポイントショップ」を開設し、サービス向上に努めました。

食品スーパー業におきましては、競合スーパーやドラッグストア、コンビニとの競争が続く中、お客様の期待を高める販促企画や商品展開等により売上拡大に努めました。また 10 月より、プロセスセンターを稼働し、品質管理のさらなる向上や品揃えの充実、生産性の向上を図り、より高い顧客サービスを提供していきます。

以上の結果、様々な取り組みをしまいいりましたが、リテールサービス事業の営業収益は、443億3千万円(前年同期比 0.8%減少)となりました。

③ モビリティサービス事業(自動車販売業、自動車運送業、石油製品販売業)

自動車販売業におきましては、7 月より当社グループに加わりました静岡トヨタ自動車にて、新型「クラウン」の販売が好調に推移しました。施設面でもレクサス和田、レクサス静岡駿河をリニューアルし、お客様がより快適に過ごせる上質な店舗づくりに努めました。

ネットトヨタ浜松では、新型車効果が薄れたことにより、新車販売は苦戦しましたが、中古車販売は好調に推移しました。

以上の結果、モビリティサービス事業の営業収益は、261億3百万円(前年同期比 71.5%増加)となりました。

④ レジャーサービス事業(旅行業、ホテル・旅館業など)

旅行業、ホテル・旅館業におきましては、大河ドラマ「おんな城主直虎」の放送終了を受け、ツアー利用、ホテルウェルシーズン浜名湖、ホテル九重での団体客の利用が伸び悩みました。

遊園地事業におきましては、電子マネー及びモバイル決済サービスや、AIチャットボットを新たに導入し、お客様の利便性向上に努めましたが、猛暑・自然災害の影響もあり集客に苦戦しました。

以上の結果、様々な取り組みをしまいいりましたが、レジャーサービス事業の営業収益は、45億5千2百万円(前年同期比 14.7%減少)となりました。

⑤ 不動産事業(不動産業、建設工事業)

不動産業におきましては、分譲住宅の引渡し順調に推移し、昨年を上回る 47 棟をお引渡しいたしました。注文住宅では、自社ブランド「ブライツS」を中心に目標を上回る 65 棟を受注しました。分譲マンションでは、昨年発売の「ブライツタウン小池」及び本年 9 月発売の「ブライツタウン磐田フレッシュ」の受注が順調に推移しております。また、賃貸部門ではICT技術を活用し、お客様の利便性向上と従業員の生産性向上に努めました。

以上の結果、不動産事業の営業収益は、62 億 4 百万円(前年同期比 1.3%増加)となりました。

⑥ その他の事業(保険代理業、介護事業、自動車運転教習業、ビル管理業、業務請負業、情報サービス業など)

保険代理業におきましては、8 月に「東京営業所」を開設し、営業エリアの拡大に努めました。

介護事業におきましては、4 月に新規オープンした介護付有料老人ホーム「ラクラス富塚レジデンス」にて、順調に入居者数を伸ばし全 48 床が満床となりました。

自動車運転教習業におきましては、10 月 1 日、(株)浜松自動車学校は、(株)遠鉄自動車学校と合併いたしました。全 6 校の高齢者講習の受付業務一本化や専用WEBサイト開設による合宿生の獲得等、業務の集約とお客様の利便性向上に努めます。

業務請負業におきましては、磐田市と掛川市において、新たに指定管理施設を受注し売上拡大に努めました。

情報サービス業におきましては、教育現場へのパソコンやタブレットの導入が順調に推移いたしました。

以上の結果、その他の事業の営業収益は、76 億 9 千万円(前年同期比 13.9%増加)となりました。

(2)業績推移

① 連結決算

(単位:百万円)

	中間			年間		
	2017年度	2018年度	2017年度比	2017年度	2018年度(計画)	2017年度比
営業収益	85,809	96,377	112.3%	178,489	210,000	117.7%
営業利益	1,978	2,542	128.5%	4,196	4,800	114.4%
経常利益	2,256	2,698	119.6%	4,729	5,000	105.7%
当期純利益	1,145	1,410	123.2%	2,128	2,300	108.1%

(注)金額は、百万円未満を切り捨て表示しております。

② セグメント別売上高

(単位:百万円)

	中間			年間		
	2017年度	2018年度	2017年度比	2017年度	2018年度(計画)	2017年度比
運輸事業	7,692	7,494	97.4%	15,556	15,400	99.0%
リテールサービス事業	44,689	44,330	99.2%	90,600	88,700	97.9%
モビリティサービス事業	15,218	26,103	171.5%	32,300	65,000	201.2%
レジャーサービス事業	5,336	4,552	85.3%	10,250	9,600	93.7%
不動産事業	6,122	6,204	101.3%	15,524	16,600	106.9%
その他の事業	6,750	7,690	113.9%	14,256	14,700	103.1%

(注)金額は、百万円未満を切り捨て表示しております。

年間計画には静岡トヨタ自動車株とその100%子会社である静岡トヨタ物流サービス株の2018年7月～2019年3月の業績が含まれております。

(3)遠鉄グループ各社の主な事業内容(2018年9月30日現在)

事業区分	事業内容	主要な会社
運輸事業	鉄道事業	遠州鉄道(株)
	一般乗合旅客自動車運送事業	遠州鉄道(株)
	一般貸切旅客自動車運送事業	遠州鉄道(株)
	自動車整備業	遠州鉄道(株)
	一般乗用旅客自動車運送事業	遠鉄タクシー(株)
リテールサービス事業	百貨店業	(株)遠鉄百貨店、(株)遠鉄百貨店友の会
	食品スーパー業	(株)遠鉄ストア
モビリティサービス事業	自動車販売業	静岡トヨタ自動車(株)、ネットトヨタ浜松(株)、 (株)トヨタレンタリース浜松
	自動車運送業	静岡トヨタ物流サービス(株)
	石油製品販売業	遠鉄石油(株)
レジャーサービス事業	旅行業	遠州鉄道(株)、(株)遠鉄トラベル
	ホテル・旅館業、遊園地事業	遠州鉄道(株)、遠鉄観光開発(株)
不動産事業	不動産業	遠州鉄道(株)
	建設工事業	遠鉄建設(株)
その他の事業	保険代理業	遠州鉄道(株)
	介護事業	遠州鉄道(株)
	自動車運転教習業	(株)遠鉄自動車学校、(株)浜松自動車学校
	ビル管理業、業務請負業、 健康スポーツ業、食品検査事業	遠鉄アシスト(株)
	情報サービス業	遠鉄システムサービス(株)

※2018年10月1日、(株)浜松自動車学校は、(株)遠鉄自動車学校と合併いたしました。